



れいわ 令和8(2026)年
がつ 9月 ⑤
まえはるしょうがっこう 前原小学校
としょかん 図書館

いま ねんまえ がつ げんしばくだん お ひろしま やく まんにん ながさき やく まんにん いのち
今から81年前の8月、原子爆弾が落とされた広島では約14万人、長崎では約7万人の命
うば が奪われました。その後も原爆症などにより長い年月にわたって多くの人が苦しんできました。
せんそう ぶ き も おお しみん ぎせい なか
た。戦争は、武器を持たない多くの市民が犠牲になります。その中には、たくさんの子ども
たちも含まれています。日本は1945年の敗戦の後、一度も戦争をしていません。しかし、
いま せかい かくち せんそう つづ せかい に ど かくへいき つか
今も世界の各地で戦争が続いています。この世界で二度と核兵器が使われることがないように、
という祈りをこめて、その恐ろしさを伝え続ける本たちがたくさんあります。

伝えたい、原爆のこと



『ヒロシマの風』吉永小百合・編 (KADOKAWA) ★★
横浜に住む小4のみどり。広島に暮らすおばあちゃんの病気をきっかけに、
原爆のことを考えはじめます。1945年8月6日、あの日おばあちゃんが体験した
ことをお父さんから聞かされたみどりは…。



『ナガサキの命』吉永小百合・編 ★★
1945年8月9日、ピカッ、グオーツ！突然投下された
一発の原子爆弾によって、長崎の町は一瞬で廃墟
となりました。そして、たくさんの命が焼かれました。

3歳の茅乃が体験したこのお話は、
すべて「本当にあったこと」なのです…
(KADOKAWA)



『核兵器をなくすと
世界が決めた日』
高橋真樹・岩崎由美子
TOTO (大月書店) ★

すべての国が核兵器の保持や使用をしないと約束する核兵器禁
止条約。核保有国の圧力をはねのけ、被爆者たちの声と市民の国
際連帯が誕生させた画期的なこの条約を物語で伝える初めての
絵本です。平和を願う世界の人々が力を合わせれば核兵器をなくせ
るという希望のメッセージを子どもたちに届けてくれています。

がつ せかいへいわ
**9月は世界平和を
よびかける月**

9月21日
こくさいへいわ せかいへいわ
国際平和(世界平和)デー

9月26日
かくへいき ぜんめんできはいつ
核兵器の全面的廃絶の
ための国際デー ※どちらも
国連が定めた国際的な記念日です。



としょかんからのお知らせ



◆夏休みの本の返却について… 夏休みの本は、9/3（木）までに
かならず 返しましょう。

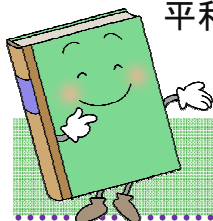
◆2026年度 前期分の図書について… 前期分の新しい本280冊が 9月末頃
入る予定です。新しい本の紹介は次回号で。お楽しみに♪



『ヒロシマ 消えたかぞく』 指田 和 / 写真・鈴木六郎 ★★
原爆投下前、戦争中であっても、散髪屋さんの鈴木六郎さん一家
6人家族は毎日笑顔で楽しく暮らしていました。お父さんの六郎さん
は、カメラが趣味。たくさんの家族写真を撮りためていました。1945年8
月6日。たった1発の原爆が、六郎さん一家を消し去ってしまいました。
この写真絵本には、原爆の残酷さ、戦争のむごさを、読む人の身に引
き寄せて考えるきっかけとなったら、という願いが込められています。

(ポプラ社)

『「ヒロシマ 消えたかぞく」のあしあと』 指田 和 ★★
悲惨な戦争を幸せな家族の風景から伝えた新しい切り
口として話題をよんだ絵本『ヒロシマ 消えたかぞく』。1500枚
以上あったアルバムから絵本ができるまでを紹介し、戦争、
平和、命について問い続ける著者・指田和さん
の活動のノンフィクションです。(ポプラ社)



図書委員がおすすめの本を紹介するコーナー

7/7～7/14放送分
聞き逃した人も大丈夫！

『昆虫世界のサバイバル』 (朝日新聞出版) ★★

学校の宿題のために、
昆虫採集をしに、田舎の
おじいさんの家に遊びに
行ったシュノとマリ。そこで、
地元の少年と会いま
す。そんな最中、正体不明
の光が近づいてきます。
気がつくと、体が小さくな
っていました！ 巨大な草原と険しい昆虫の世界
で生きる冒険の物語です。 M・A(6の3)



『ようかいとりものちょう』 大崎悌造 (岩崎書店) ★

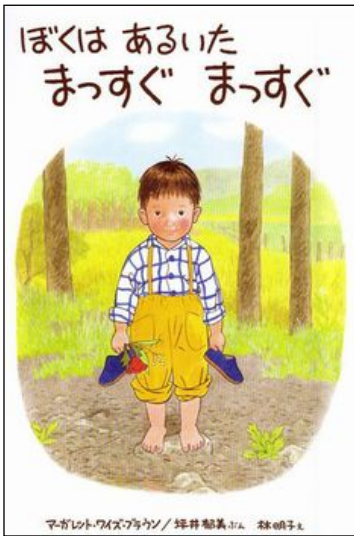
この本の主人公、いなりの
コン七は、妖怪お江戸で評
判の岡っ引き。何にでも化け
ることができるけど、よく失敗
もしてしまいます。この「ようか
いとりものちょう」は、悪い妖
怪たちを相手にコン七が活
躍する様子を描いた物語で
す。この本は、シリーズでたくさんあるので、ぜひ読ん
でみてください。 W・R(6の3)



対象学年のめやす ★1・2年～ ★★3・4年～ ★★★5・6年～

はやし あきこ ほん よ 林 明子 さんの本を読んでみよう！！

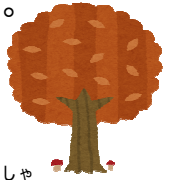
生き生きとした姿で子どもたちを描き出す絵本作家、林明子さんが、7月にお亡くなりになりました。『はじめてのおつかい』や『こんとあき』など、数多くの心に残る作品を手掛けられました。



『ぼくはあるいた まっすぐ まっすぐ』（ペンギン社）★

マーガレット・ワイズ・ブラウン / 林 明子

ある春の日、「ぼく」はおばあちゃんの家へ、はじめて一人で向かいます。おばあちゃんに電話で教えてもらったとおり、田舎道をまっすぐまっすぐ…。途中、いろいろな“はじめて”に出会いますが、ぼくは臆せず歩き続けます。「ここがおばあちゃんのおうちかな？」とのぞいてみると、馬の親子が顔を出してビックリ。最後にのぞいたお家で待っていたのは…。やわらかい色彩で描かれた春の空気感がいっぱいの絵本です。



『もりのかくれんぼう』末吉 暁子 / 林 明子（偕成社）★

公園でお兄ちゃんと遊んだ帰り道、近道しようと生垣をくぐったけいこは、見たこともない大きな森の入口に立っていました。黄金色にかがやく秋の森で、けいこは枝や木の葉と同じ色をした不思議な男の子に出会います。男の子に誘われて、森の動物たちと一緒に大好きなかくれんぼをすることに。最初はけいこがおにになりました。くまさん、きつねさん、いたちさん…みんな一体どこにかくれているのでしょうか。よ〜く見てみると、森の木々や草むらの中に、上手に隠れている動物たちの姿が見えてきます。とても楽しいかくし絵の絵本です。



『はじめてのキャンプ』林 明子（福音館書店）★

なほちゃんが、隣のおばさんのうちへ遊びに行くと、大きい子どもたちとキャンプの話をしています。すると、なほちゃんも「わたしも行く！」と言いました。みんなは口ぐちに「小さい子はだめ！」と言いましたが…。なほちゃんは大きい子たちに負けまいと、重い荷物もひとりで背負い、薪を集め、一生懸命頑張ります。夜、テントで怖い話も聞きましたが、約束通り、ひとりでおしっこに行くことができたのでしょうか？なほちゃんの「はじめてのキャンプ」は、どうだったのでしょうか？

ながねん だいいつせん かつやく にほん えほんぶんか はってん おお こうけん こ
 長年にわたり第一線で活躍し、日本の絵本文化の発展に大きく貢献されました。子ども
 にちじょう やさ えが あたた さくひん せだい こ あい つづ
 もたちの日常を優しく描いた温かみのある作品は、世代を超えて愛され続けています。



『なないろ山のひみつ』 征矢かおる / 林明子 (福音館書店) ★

なないろ山のふもとに、さちという女の子が住んでいました。さちは、な
 ないろ山が大好きでした。ところがある日、なないろ山から赤いひかりが
 出ています。なないろ山に何か異変が起きたようです。さちは、おばあちゃんに頼まれて、助けを求めている山のじいさんぎつねのもとへと向かいます。次々といろいろな色のひかりが現れては消えていく中を、さちはじいさんぎつねが待つ滝へと急ぎますが…。果たして、さちは、なないろ山の危機を救うことができるでしょうか。おばあちゃんが言っていた「なないろ山のひみつ」とは、一体何なのでしょう…？



『魔女の宅急便』 角野栄子 / 林明子 (福音館書店) ★★

キキは魔女のお母さんと、人間のお父さんの間に生まれた女の子。 “13歳になったら、魔女としてひとり立ちするために、家を離れて知らない町で1年間暮らす”というきまりに従って、満月の夜、ほうきに乗って相棒の黒猫ジジと一緒に新しい町へと旅立ちます。辿り着いたのは、きれいな海に囲まれたコリコの町。ひと目で気に入ったキキはこの町で修行することになります。幸運にもグーチョキパン屋のおソノさんと出会い、下宿させてもらいながら、持っているたったひとつの魔法“ほうきで空を飛ぶこと”を生かして、お届けものの屋さんをはじめます…



このほかに、前小図書館にある 林明子さんの本たち

『こんとあき』 林 明子 (福音館書店) ★

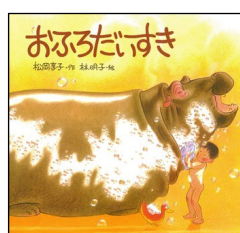
『はじめてのおつかい』 筒井 頼子 / 林 明子 (福音館書店) ★

『とんことり』 筒井 頼子 / 林 明子 (福音館書店) ★

『おふろだいすき』 松岡 享子 / 林 明子 (福音館書店) ★

『びゅんびゅんごまがまわったら』 宮川ひろ / 林明子 (童心社) ★

『ガラスのうま』 征矢 清 / 林 明子 (偕成社) ★



しゅっぱんしゃ だ さくひんじょうほう いちぶいんよう
 出版社が出している作品情報を一部引用しています。